

I. 振動に係る苦情の件数

(1) 苦情件数の推移

平成26年度に全国の地方公共団体が受理した振動に係る苦情の件数は3,180件であった。これは、前年度(3,351件)と比べて171件(5.1%)の減少となった(図1)。

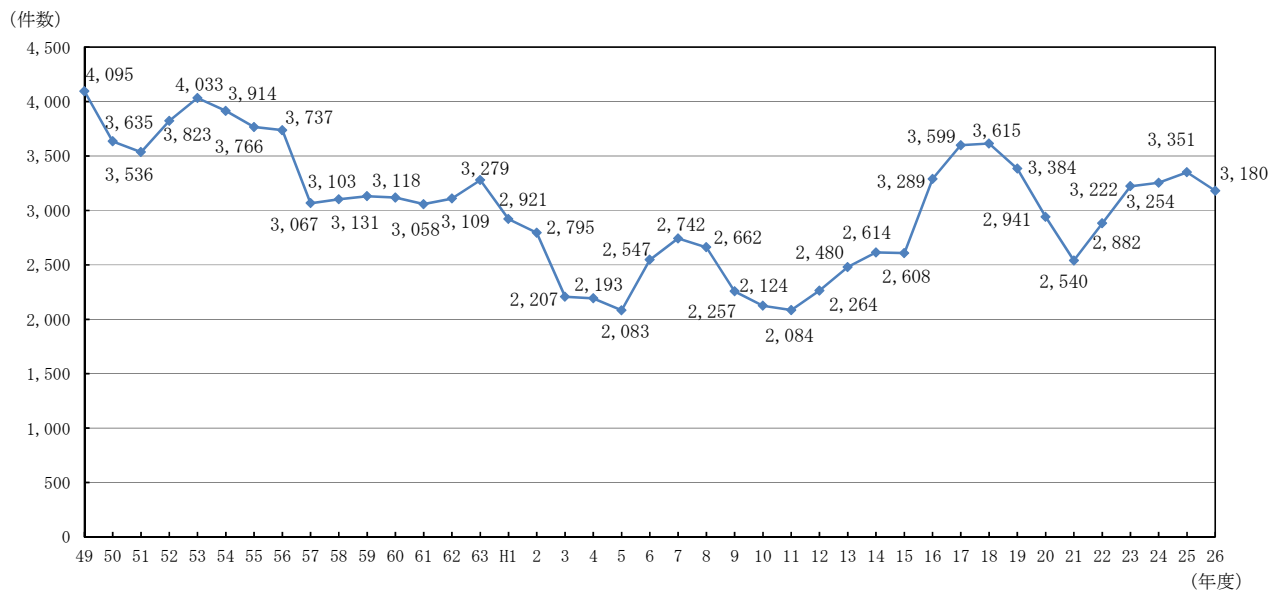


図1 振動苦情件数の推移

(2) 発生源別の苦情件数

平成26年度の苦情件数を発生源別にみると、建設作業が2,032件（全体の63.9%）で最も多く、次いで工場・事業場601件（同18.9%）、道路交通273件（同8.6%）、鉄道47件（同1.5%）の順となっている（図2、図3）。

また、前年度と比較すると、道路交通に係る苦情が14件（5.4%）、鉄道に係る苦情が11件（30.6%）増加したものの、建設作業に係る苦情が212件（9.4%）、工場・事業場に係る苦情が12件（2.0%）減少した。

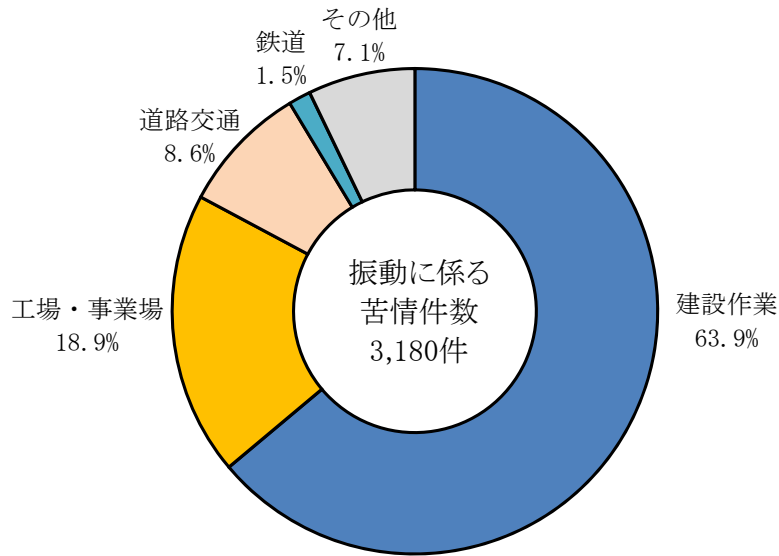


図2 苦情件数の発生源別内訳
(平成26年度)

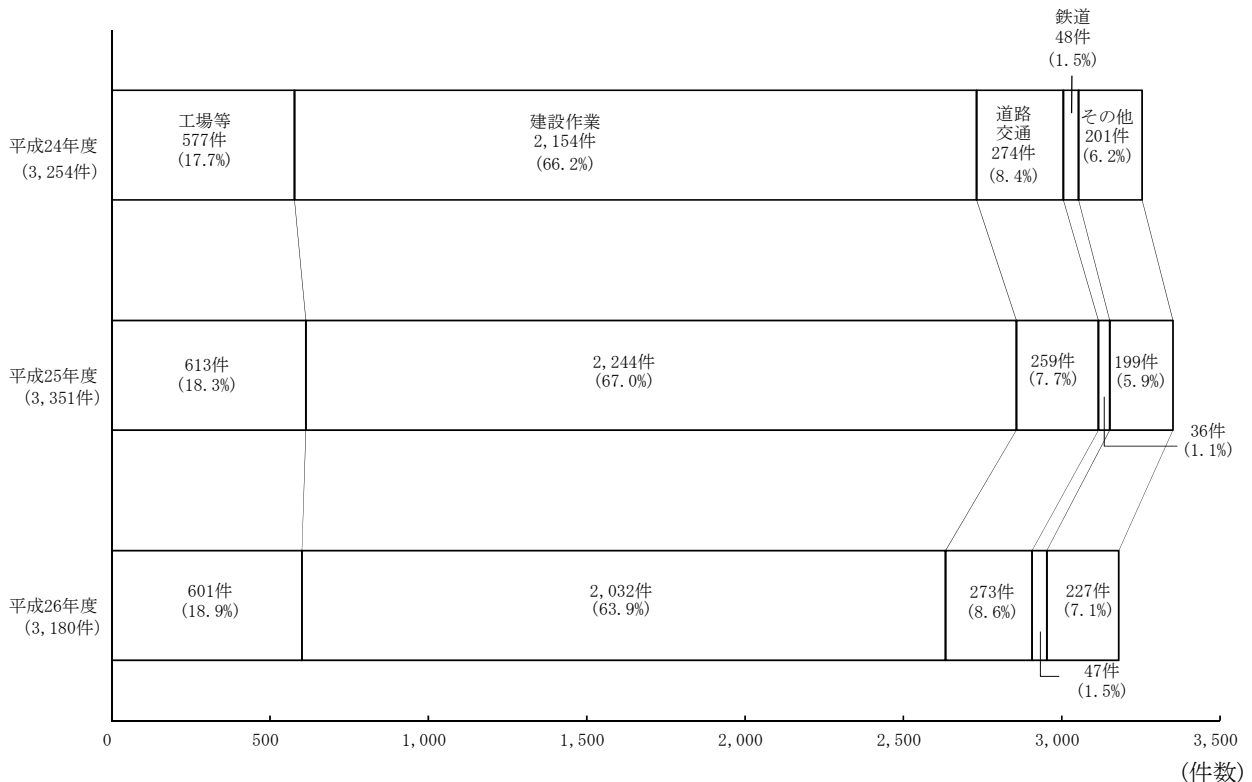


図3 過去3カ年の苦情件数の発生源別内訳

(3) 都道府県別の苦情件数

平成26年度の苦情件数を都道府県別にみると、東京都の829件が最も多く、次いで大阪府が362件、埼玉県が308件、神奈川県が282件、愛知県が263件となっている。振動苦情件数の上位5都府県における合計件数が全体の64.3%に達するなど、大都市を有する地域における苦情が大きな割合を占めた。この傾向は、人口100万人当たりの苦情件数においてもほぼ同様であった。(表1、表2)。

表1 都道府県別苦情件数（上位5都道府県）

	苦情件数		人口100万人当たりの苦情件数	
	都道府県	件数	都道府県	件数
1	東京都	829	東京都	62
2	大阪府	362	埼玉県	43
3	埼玉県	308	大阪府	41
4	神奈川県	282	愛知県	36
5	愛知県	263	千葉県	35
	全国	3,180	全国平均	25

※人口は平成26年10月1日の総務省統計局推計人口による。

表2 苦情件数の都道府県別対前年度増減状況

都道府県	平成25年度	平成26年度	増減	増減率	都道府県	平成25年度	平成26年度	増減	増減率
北海道	60	69	9	15.0%	滋賀県	21	21	0	0.0%
青森県	8	11	3	37.5%	京都府	45	37	△8	△17.8%
岩手県	8	11	3	37.5%	大阪府	377	362	△15	△4.0%
宮城県	48	39	△9	△18.8%	兵庫県	85	101	16	18.8%
秋田県	13	8	△5	△38.5%	奈良県	15	6	△9	△60.0%
山形県	4	1	△3	△75.0%	和歌山県	16	13	△3	△18.8%
福島県	16	16	0	0.0%	鳥取県	11	10	△1	△9.1%
茨城県	42	52	10	23.8%	島根県	7	5	△2	△28.6%
栃木県	23	15	△8	△34.8%	岡山県	49	50	1	2.0%
群馬県	49	40	△9	△18.4%	広島県	44	42	△2	△4.5%
埼玉県	309	308	△1	△0.3%	山口県	11	11	0	0.0%
千葉県	237	216	△21	△8.9%	徳島県	5	6	1	20.0%
東京都	867	829	△38	△4.4%	香川県	10	12	2	20.0%
神奈川県	312	282	△30	△9.6%	愛媛県	15	18	3	20.0%
新潟県	41	28	△13	△31.7%	高知県	4	9	5	125.0%
富山県	4	5	1	25.0%	福岡県	43	52	9	20.9%
石川県	9	10	1	11.1%	佐賀県	8	7	△1	△12.5%
福井県	11	8	△3	△27.3%	長崎県	4	4	0	0.0%
山梨県	16	4	△12	△75.0%	熊本県	20	25	5	25.0%
長野県	10	19	9	90.0%	大分県	4	12	8	200.0%
岐阜県	21	14	△7	△33.3%	宮崎県	14	14	0	0.0%
静岡県	87	70	△17	△19.5%	鹿児島県	30	22	△8	△26.7%
愛知県	283	263	△20	△7.1%	沖縄県	6	4	△2	△33.3%
三重県	29	19	△10	△34.5%	合計	3,351	3,180	△171	△5.1%

△は減少を示す。

(4) 規制対象とそれ以外の苦情件数との比較

I (2) でしめしたとおり、平成26年度の工場・事業場に対する苦情総数601件であり、そのうち振動規制法の規制対象となる指定地域内の特定工場等に対するものは、142件(全体の23.6%)であった。また、建設作業に対する苦情総数2,032件のうち、同指定地域内の特定建設作業に対する苦情は666件(全体の32.8%)となっている(表3)。

表3 規制対象とそれ以外の苦情件数 (工場・事業場、建設作業)

発生源 の種類 年 度		工場・事業場					建設作業				
		特定工場等		左記以外		計	特定建設作業		左記以外		計
		指定地域内	指定地域外	指定地域内	指定地域外		指定地域内	指定地域外	指定地域内	指定地域外	
平成25年度	件数	151	7	383	72	613	765	23	1,387	69	2,244
	%	24.6%	1.1%	62.5%	11.7%	100.0%	34.1%	1.0%	61.8%	3.1%	100.0%
平成26年度	件数	142	8	395	56	601	666	29	1,283	54	2,032
	%	23.6%	1.3%	65.7%	9.3%	100.0%	32.8%	1.4%	63.1%	2.7%	100.0%

Ⅱ. 振動規制法に基づく地域指定の状況及び届出件数

(1) 地域指定の状況

振動規制法に基づく規制地域を有する市区町村は、平成26年度末時点で、全国の市区町村数の70.8%に当たる1,232市区町村であった(表4)。

表4 振動規制法地域指定の状況(平成26年度末現在)

	市	区	町	村	計
全市区町村数	790	23	745	183	1,741
振動規制法 地域指定	753	23	417	39	1,232
割合(%)	95.3%	100.0%	56.1%	21.3%	70.8%

(2) 特定工場等総数及び特定施設の届出数

振動規制法に基づき届出されている特定工場等の総数は、平成26年度末時点で126,535件で、前年度(129,547件)より3,012件(2.3%)減少している(表5)。また、特定施設の総数は853,616件で前年度(856,032件)より2,416件(0.3%)減少している(表6の②)。

特定工場等の内訳をみると、主な特定施設として圧縮機を届け出ているものが34.4%と最も多く、次いで、金属加工機械が30.6%、織機が14.4%の順となっている(表6の①)。

特定施設の届出数の内訳をみると、金属加工機械が31.5%、織機が28.7%、圧縮機が24.1%とこれら3施設で全体の8割以上を占めている(表6の②)。

表5 特定工場等総数の最近の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
特定工場等総数	126,865	129,547	126,535
対前年度比 (増減率)	1 (0.0%)	2,682 (2.1%)	△3,012 (△2.3%)

表6 法に基づく届出件数(平成26年度末現在)

①特定工場等総数			②特定施設総数		
主要な設置特定施設	総数	(%)	特定施設	総数	(%)
金属加工機械	38,751	30.6%	金属加工機械	269,181	31.5%
圧縮機	43,551	34.4%	圧縮機	205,628	24.1%
土石用破砕機等	4,057	3.2%	土石用破砕機等	19,739	2.3%
織機	18,237	14.4%	織機	244,969	28.7%
コンクリートブロックマシン等	821	0.6%	コンクリートブロックマシン等	2,283	0.3%
木材加工機械	2,351	1.9%	木材加工機械	4,347	0.5%
印刷機械	9,976	7.9%	印刷機械	36,937	4.3%
ロール機	652	0.5%	ロール機	3,906	0.5%
合成樹脂用射出成形機	6,907	5.5%	合成樹脂用射出成形機	60,248	7.1%
鋳造型機	1,232	1.0%	鋳造型機	6,378	0.7%
計	126,535	100.0%	計	853,616	100.0%

(3) 特定建設作業の実施届出件数

平成26年度中の特定建設作業実施届出件数は38,803件(前年度40,406件)であり(表7)、その内訳をみると、ブレーカーを使用する作業が32,874件(同33,852件)、くい打機等を使用する作業が5,035件(同5,577件)の順となっており、これらが大部分を占めている(表8)。

表7 特定建設作業件数の最近の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
特定建設作業届出件数	38,141	40,406	38,803
対前年度比 (増減率)	2,692 (7.6%)	2,265 (5.9%)	△1,603 (△4.0%)

△は減少を示す。

表8 特定建設作業の届出件数

特定建設作業の種類	届出件数	(%)
くい打機等を使用する作業	5,035	13.0%
鋼球を使用して破壊する作業	48	0.1%
舗装版破砕機を使用する作業	846	2.2%
ブレーカーを使用する作業	32,874	84.7%
計	38,803	100.0%

Ⅲ. 振動規制法に基づく措置の状況

(1) 特定工場等に対する措置等の状況

I (4) に示すとおり、平成 26 年度の振動規制法の指定地域内の特定工場等に係る苦情は 142 件（前年度 151 件）であった。

これに対して振動規制法に基づき行われた措置は、立入検査が 132 件（同 127 件）、報告の徴収が 28 件（同 36 件）、振動の測定が 63 件（同 51 件）であった。測定の結果、規制基準を超えていたものは 14 件（同 4 件）であり、改善勧告及び改善命令は 0 件（同 0 件）だった。なお、これらの振動規制法に基づく措置のほか、行政指導が 124 件（同 137 件）行われた（表 9）。

表9 指定地域内の特定工場等振動に係る措置等の状況

	平成25年度	平成26年度
立入検査	127	132
報告の徴収	36	28
振動の測定	51	63
（うち基準超過）	4	14
改善勧告	0	0
改善命令	0	0
行政指導	137	124
（参考）苦情件数	151	142

注) 苦情に対して振動規制法に基づき行われた措置等は、必ずしも当該年度に受理された苦情に対するものとは限らない。

(2) 特定建設作業に対する措置等の状況

I (4) に示すとおり、平成 26 年度の振動規制法の指定地域内における特定建設作業に係る苦情は、666 件（前年度 765 件）であった。

これに対して振動規制法に基づき行われた措置は、立入検査 535 件（同 579 件）、報告の徴収 138 件（同 105 件）、振動の測定 147 件（同 148 件）であった。測定の結果、基準を超えていたものは 9 件（同 7 件）であり、改善勧告及び改善命令は 0 件（同 0 件）だった。なお、これらの振動規制法に基づく措置のほか、行政指導が 575 件（同 656 件）行われた（表 10）。

表10 指定地域内の特定建設作業振動に係る措置等の状況

	平成25年度	平成26年度
立入検査	579	535
報告の徴収	105	138
振動の測定	148	147
（うち基準超過）	7	9
改善勧告	0	0
改善命令	0	0
行政指導	656	575
（参考）苦情件数	765	666

注) 苦情に対して振動規制法に基づき行われた措置等は、必ずしも当該年度に受理された苦情に対するものとは限らない。

(3) 道路交通振動に対する措置の状況

平成26年度の振動規制法の指定地域内における道路交通騒音の苦情は233件（前年度227件）であった。

これに対して振動規制法に基づき行われた措置は、振動の測定が79件（同64件）であり、測定の結果、要請限度を超えていたものは3件（同2件）であった。また、都道府県公安委員会に対する要請及び道路管理者に対する要請は0件（同0件）だった。

なお、これらの振動規制法に基づく措置のほか、都道府県公安委員会に対する同様の措置依頼が6件（同6件）、道路管理者に対する措置依頼が101件（同92件）行われた（表11）。

表11 指定地域内の道路交通振動に係る措置等の状況

	平成25年度	平成26年度
振動の測定	64	79
（うち要請限度超）	2	3
公安委員会への要請	0	0
道路管理者への要請	1	0
要請以外の公安委員会への措置依頼	6	6
要請以外の道路管理者への措置依頼	92	101
（参考）苦情件数	227	233

注) 苦情に対して振動規制法に基づき行われた措置等は、必ずしも当該年度に受理された苦情に対するものとは限らない。